

埼葛の まつり・行事

開催にあたって

埼葛地区は埼玉県東部低地を中心に南北に広がる地域です。多くの河川が流れ込み、県内でも随一の穀倉地帯である反面、その氾濫に悩まされてきた土地柄もありました。そうした歴史的背景は暮らしに様々な影響をもたらし、独特の民俗文化を育んできました。

今回の巡回展は、埼葛地区文化財担当者会が調査した埼葛地区のまつり・行事について紹介するものです。各市町から集まった5,500件を超えるデータについてはすでに報告書として刊行し、この展示では各市町のまつり・行事の概観や、埼葛地区の特徴を示すまつり・行事について、写真を用いて紹介しています。

長い年月を経て先人から伝えられたこれらの貴重な民俗文化も、高度成長期以降の急速な生活様式の変化により、次第に過去の姿を変えつつあります。この展示を通して、郷土の伝統文化にふれ、そのすばらしさを再認識していただければ幸いです。

最後になりましたが、調査・展示に際しまして快くご協力いただきました多くの皆様に心より感謝申し上げます。

高富のあられまき（吉川市）



篠津の天王様（白岡町）



特徴的な8つの行事

I オビシャ行事

オビシャは弓矢で的を射ることによって、その年の吉凶を占う行事である。また、的神事を伴わず直会を中心とする行事も多い。県東南部の低地を中心に分布し、埼玉地区を代表する行事である。春は予祝、秋は収穫祭の要素が強く、また、弓を射り、的への当たり具合で、天候や農作物の出来具合等その年の吉凶を占う弓射りの他、あられをぶつけ合う、藁蛇を作る、蓬莱山等の作り物を作る、お高盛りを行う等その行事内容は多岐に亘る。

II 藁の作り物がある行事

藁で作られるものは蛇が多く、他に大きな草鞋、酒樽等がある。藁蛇は中川流域に分布しており、その周辺に草鞋等が点在している。藁蛇の分布は、中川上流域の幸手、杉戸周辺と、下流域の三郷、八潮、吉川、越谷周辺の2か所に集中して見られる。上流域では3～7月にかけて行われ、辻切り等と呼ばれる。また、下流域では春のオビシャや初午の際に作られる。どちらも魔よけの意味を持つものであるが上流域の事例が村境に置かれることから防ぎの要素が強く考えられる。

III 甘酒を伴う行事

甘酒を伴う行事は稲作地帯で顕著に見られ、主に初午、オビシャ、甘酒祭りで報告されている。いずれの行事でも祭礼時に大量に甘酒を作り飲むことがほぼ共通している。しかし、鷺宮・久喜を中心として分布する甘酒祭り、幸手・杉戸から越谷にかけて分布するオビシャ、越谷から八潮にかけて分布する初午と各行事の分布範囲が明確に分かれている。また、台地上の菖蒲、蓮田、白岡などではほとんど報告されておらず、甘酒を伴う行事が低地の稲作地帯特有の行事である。

IV ムラを廻る行事

ムラを廻る行事は夏場に流行る病を鎮めて、厄を祓うために行われる。天王様は街場で多く行われ、御輿渡御や山車の曳き廻しをする行事であり、同様に御輿渡御を行う大杉様は、かつて下総国であった古利根川左岸流域に集中して行われる。この他、大勢が輪になって大数珠を回しながら念仏を唱える百万遍が埼玉地区全域に見られ、大般若経600巻を担いで廻り、転読する大般若という行事が、三郷・八潮・蓮田に多く見られる。



木曽根の弓ぶち(八潮市)



東大輪の藁蛇 (鷺宮町)



東条原の甘酒祭り(宮代町)



上野田百万遍 (白岡町)

V 獅子を用いる行事

獅子を用いる行事にはお獅子様と獅子舞がある。春から夏に多く行われ、いずれも獅子頭の霊力により、災いを除ける行事である。お獅子様は地区持ちあるいは神社で借りた獅子頭を持ってムラを廻る行事で、埼玉地区では菖蒲・久喜・蓮田・白岡に多く分布しており、これは騎西町玉敷神社で獅子を借りる地区がこれらの市町に多いためである。獅子舞は一人立ち・三匹の獅子が舞やムラ廻りを行うもので、その分布は河川流域に沿う傾向が見られる。



除堀の獅子舞(久喜市)

VI 籠りの行われる行事

籠りは神社等に一晚泊まる行事であり、初午とくんちに行われるものが多い。双方とも小学生の男の子が神社でお籠りをし、それに先立って近隣を廻りお賽銭をもらって歩き、菓子を買ったりしている。また夜は太鼓を叩いたり、甘酒や赤飯を食べたり、時には他の村のお籠りしている所に行って一晚中遊んだ事例が多くほぼ同様の行事といえる。しかし、その分布は初午が宮代を中心に埼玉地区北部一帯に広がっているのに対し、くんちは埼玉地区南部の低地に広がりが見られる。



大正5～6年頃の初午（幸手市）

VII 自然災害を除ける行事

本調査では、自然災害を除けるための行事に虫追いと二百十日・二百二十日の2つの行事が多く報告された。虫追いは稲に付く害虫を追い払うことを目的とした呪術的な行事で、主に7月に行われる。一方、二百十日・二百二十日は9月1日から11日を中心に行われる嵐除け、台風除けの行事である。虫追いが南部の越谷を中心とする低地、及び北部の栗橋、久喜、鷲宮の2つの分布圏に広がるのに対し、二百十日はその分布圏の間である杉戸、幸手、宮代を中心に分布している。



北川崎の虫追い（越谷市）

VIII 灯籠を伴う行事

灯籠を伴う行事は、灯籠祭りと石尊灯籠がその大半を占めている。灯籠祭りは四角い木枠に和紙を貼った灯籠を社寺の参道等に並べて灯す祭りで、観音様の縁日である四万六千日に多く行われている。この分布を見ると古利根川以西の北部に多い。石尊灯籠は本来、神奈川県の大山阿夫利神社を信仰する大山講において、夏山の期間立てられる灯籠で、古利根川以西の北部地域に多く分布し、中川流域では見られない。



柴山枝郷の石尊灯籠（菖蒲町）

地形別まつり・行事分布図



高虫のお獅子様（蓮田市）



佐間の四方固め
（栗橋町）



台の灯籠まつり（菖蒲町）



盆踊り（幸手市）



西金野井の獅子舞（庄和町）



田島の虫追い（松伏町）



彦系のオビシャ（三郷市）

